



自然の恵みを体感 「東洋紡 綾の森」イベント

令和5年に環境省の自然共生サイト（OECM）に認定された「東洋紡 綾の森」。綾の照葉樹林プロジェクトエリアに隣接するこの貴重なフィールドを、環境教育の場として活用する取り組みが始まりました。

4月11日には、市民参加型イベント「森の恵みを見つけよう！食べられる野草ツアー」が行われました。町内外から約30人が参加し、山菜アドバイザーで「ふるさと綾の味研究会」会長の野村美智子さん（全道）と共に春の野草を観察・採集しました。

約1時間の森林散策を楽しんだ後は、ユネスコエコパークセンターに移動。同研究会の皆さんが調理した山菜ごはんや天ぷら、ジビエの昼食を堪能しました。参加者からは「ワラビやタラの芽のほのかな苦みに春を感じる！」「藤の花も食べられるの!？」などの声が上がリ、驚きと発見が詰まった一日となりました。

終了後のアンケートには参加者全員が「環境保全への関心が高まった」と回答するなど反響も大きく、「地元の自然や文化をもっと知りたい」といった感想

も寄せられました。

「東洋紡 綾の森」は、企業と地域が連携して希少な生態系を守る、持続可能な森林管理のモデルエリアです。こうした体験イベントを通して森の豊かさを知り、保全活動にかかわるきっかけを見つけてませんか。



普段は立ち入りができない「東洋紡 綾の森」で散策を楽しんだ参加者



ヤブレガサも食べられる野草

